

## 2020年を迎えて



早稲田大学  
基幹理工学部情報通信学科 教授  
一般社団法人日本 ITU 協会  
出版・編集委員会 委員長

かめやま わたる  
亀山 渉

新年、明けましておめでとうございます。

出版・編集委員会を代表し、会員の皆様に謹んで新年のお喜びを申し上げます。編集委員会一同、本年も、「ITUジャーナル」と「New Breeze」の充実邁進してまいります。

情報通信サービスに関して、2019年にも様々なバズワードが生まれました。中でも、「サブスク」は、ビジネスモデルの一つの流行になったと言っても良いのではないかと思います。「サブスク」は、もちろん、「サブスクリプション」の略であり、「スマホ」もそうでしたが、英単語を短くしてキャッチーな日本語にする日本人の能力には驚くばかりです。「サブスクリプション」を訳せば「契約制」あるいは「会員制」ということになろうかと思いますが、多くのサブスクリプションサービスは定額制を採用しているため、「サブスク＝定額制サービス」と一般的には認知されているようです。もちろん、音楽、動画、本といったマルチメディアコンテンツの「サブスク」が広まりつつありますが、一方で、様々な「サブスク」も誕生したとの各種報道がありました。例えば、飲食系、乗り物系、ファッション系、家具・家電・宝飾品のレンタル系、ホテル・マンション・古民家・シェアハウス等の宿泊系、英語などの各種学習・教育系等があり、少々変わったところでは、医療・法律・占い等の相談系もあるとのこと。これは、日本人の生活スタイルが変化し、いわゆる「おひとりさま生活」が広まりつつあることも理由の一つなのかもしれません。

マルチメディアコンテンツの「サブスク」の隆盛に関しては、4Gに代表されるワイヤレスブロードバンドネットワークが生活に十分に浸透した結果と考えることができましょう。現在、音楽や動画の「サブスク」が大流行りです。研究室の学生に聞いたところ、約半分がなんらかの音楽あるいは動

画の「サブスク」をしていました。音楽の「サブスク」に焦点を当ててみると、従来のCD物流による音楽流通からダウンロードによる音楽流通に進化し、更に、「サブスク」に進化したという流れになります。また、音楽の「サブスク」には、特筆すべき面白い付加サービスとして、プレイリストの交換や公開があります。もちろん、これ自体は2019年に新しく生まれたサービスではありませんが、「サブスク」が進展することによって広がりを見せており、音楽家、評論家、アーティストをはじめとして、一般ユーザもプレイリストを公開し、ユーザはこのプレイリストにそった一連の楽曲を楽しむようになってきました。例えば、「とにかく枕に突っ伏したい時のプレイリスト」、「朝聞きたいプレイリスト」、「アゲアゲなプレイリスト」等々、ググってみると本当に沢山のプレイリストを検索できます。古い話ですが、昔、多くのレコードから好きな楽曲のみをカセットテープに録音して個人的に楽しむ、あるいは、友達と共有して青春時代を楽しんだ方もいらっしゃると思いますが、それと同じことを実に簡単に、かつ、手軽に実現できるようになりました。音楽と動画に関しては、このプレイリストに代表されるような付加サービスも更に発展し、「サブスク」の流れは益々加速して、近い将来には、ほとんどの人が音楽あるいは動画を「サブスク」によって楽しむことになりそうです。

さて、2020年には日本でも5Gのサービスが開始されます。5Gのメリットや5Gで実現できる新しいサービス等に関しては、既に様々な事業者の方々が報道、冊子体、Web、プロモーション動画等で公表されています。5Gが利用できるようになると、先に述べた「サブスク」も益々発展するでしょうし、更に新しい魅力的なサービスも生まれるでしょう。技術の専門家ではない私の知り合いの中には、4Gで十分便利さを享受しているので5Gの必要性を感じないと言う人もいますが、いつの時代にもそのような人はいるものです。しかし、実際に手にしてみると、その素晴らしさに気づき、手放せなくなるものです。正に、「時代は繰り返す」です。今後、どのような新しい魅力的なサービスやビジネスモデル等が生まれるのか、個人的に、2020年はこの点に注目したいと思っています。

結びといたしまして、会員の皆様のご多幸とご健勝、そして本年が皆様にとって更なる飛躍の年となりますことを祈念いたします。本年もITUジャーナルをどうぞ宜しくお願いいたします。